

自衛隊神奈川地方協力本部

救急救命士を目指す大学生に職業講話



小津 1 等陸尉を紹介する
内山 (2 等空尉) 市ヶ尾募集案内所長



講話の様子

自衛隊神奈川地方協力本部市ヶ尾募集案内所（所長 内山 2 等空尉）は、令和 3 年 6 月 1 日（火）日本体育大学保健医療学部救急医療学科 3 年生の講義の 1 コマを利用し、陸上自衛隊衛生学校から小津 1 等陸尉を招いて衛生関連に特化した職業講話を行なった。日本体育大学での講義は回数を重ねこれまでで 6 回目であり、今回の講義は感染症対策の為、対面とオンライン聴講というハイブリット方式での実施となった。

小津 1 等陸尉は、救急救命士資格を目指している学生へ自身の経験を基に野外手術システムおよび第一線救護衛生員等について説明した。野戦型救急車の内部写真等を紹介しながら、消防署の救急車との違いを交えたり、自衛隊の救急車は 4 名の傷病者を 1 回で搬送できたりと、具体的な搬送方法について解説があった。また、令和 2 年度より救急救命士資格を取得して入隊した隊員が勤務しながら准看護師の資格を取得することで、第一線救護衛生員を目指すシステムが施行され、自衛隊で活躍できるステージがあることを紹介し学生はメモを取りながら真剣に聞き入っていた。准看護師資格を持つことで緊急救命行為が実施でき、消防勤務では処置できない分野に取り組みることができる自衛隊ならではの医療行為には注目が集まっていた。

また、衛生員として国際平和協力業務に従事するチャンスもあり海外でも経験が積めること、災害派遣で衛生員の要請が多くあること等、興味深い話が続き学生の関心を集めていった。

講話終了後のアンケートでは『第一線での緊急救命行為が幅広いこと』『や』『消防や病院の救急救命士の職務内容と大きな違いがあることが分かった』『自衛隊への就職も考えてみようと思った』と学生から嬉しい感想があった。

市ヶ尾募集案内所は「自衛隊の職種について深く理解してもらえ、貴重な時間で、学生が目標している救急救命士資格を活かせる現場があることを発信し、志願者獲得を進めていきたい」としている。

「20's Fes ZAMA」を支援 ～大人への扉～



自衛隊神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 新妻 1 陸尉）は 6 月 12 日（土）、ハーモニーホール座間で行われた「20's Fes ZAMA」において募集広報を実施した。このイベントは、座間口 1 タリークラブが主催し、二十歳を迎えた若い世代の郷土愛を高めるとともに自分たちの成長を温かく見守り育ててくれた人たちに感謝する場・地域社会全体でお祝いする場として開催された。ホール内では相模原地域事務所が募集ブースを設置するとともに、ホール内のモニターに自衛隊ビデオを放映、屋外では第 3 1 普通科連隊及び第 4 施設群の支援を受け装備品展示を実施した。また、神奈川地本のゆるキャラ「はまやん」が登場し、記念撮影をする場面があり好評であった。

式典では自衛隊動画を放映し、自衛隊の仕事内容を説明。「能力とやる気次第でいろいろな将来の選択肢があること」「人との繋がりを大切にすること」が理解できたとの感想も聞かれた。また、主催者から「夢中になれるものを見つけてください」「頑張ったものが将来に繋がる」とメッセージを送った。

イベントの最後は、ホールから屋外の「ふれあい広場」に場所を移し未来に向けバルーンリリースで幕を閉じた。

相模原地域事務所は、「今後も、感染症拡大防止に留意しながら地域と密接に連携した様々なイベントに参加して、自衛隊の活動を積極的にアピールしていきたい」としている。

